

度会郡の4町（玉城町・度会町・南伊勢町・大紀町）と多気郡大台町の5町が連携し、(特)三重県子どもNPOサポートセンターに委託してファミリーサポート事業を実施しています。

## 里親シンポジウムに参加して



子どもは生まれた地域のいろいろな人の関わりの中で育っていくのが大切だと思います。ファミリー・サポート・センター事業や里親もその一つと考えています。

今回10月8日(土)三重県主催(企画運営:三重県子どもNPOサポートセンター)の「里親シンポジウム」が玉城町保健福祉会館で開催されました。多くの方々に参加していただき、里親の事を知って頂きました。



この里親シンポジウムで全国に4万人・三重県に500人の子どもたちが親の病気や事故、養育困難などの理由により保護者と一緒に暮らす事ができないというそんな事実を知りました。里親というと、子どもが授からなかった夫婦になるものと思いこんでいたところがあり、自分には直接関係無いと思っていました。「自分の子どもも満足に育てられないのに、他人の子どもなんてとんでもない。」と決めつけているところもありました。仕事柄、子どもと接し、子どもたちの幸せを願っていたはずの自分ですが、もっともっと深く・広く、全ての子どもたちのことを考えるべきだったと反省しました。

そこで、自分に出来る事は何かと考えてみました。里親に関してまだまだ正しく認知されていない現状の中、今回の里親シンポジウムに玉城町保健福祉会館のホールが満席になるなど少しずつ人々の関心が向けられていることを色々な人に伝えながら、正しく里親に対しての理解と認識をしてもらうようにすること。この里親普及啓発事業に8つの市町が関わっていて度会町もその中に入っているの、町職員である私たちも「里親」について沢山の方々に知らせていけるよう働きかけていくこと。「ある地域の人々が里親により育てられている子どもをみんなで支えている」とこのシンポジウムで知り、そんな地域が増えるよう微力ですが、自分なりに頑張っていきたいと考え、行動をしていこうと思っています。

子どもの権利が保障され守られていて、未来ある子どもたちが皆幸せで、平等であるべきだと思います。みんなが偏見無く全ての子どもたちを見守れる、そんな未来を期待したいし願っています。

度会町子育て支援センター 小林なつみ



今回、里親シンポジウムに参加させていただき、自分が知らなかったことをたくさん知ることが出来ました。自分は保育士という仕事ながら里親という言葉は知りつつ、内容までは深く知りませんでした。今回の講演会で「愛着形成」という言葉がよく耳に残っています。保育士の勉強時にも聞かれた言葉でしたが、当時は他の事もあり、あまり残っていませんでした。今回の講演会で子どもにとっても親となる大人にとっても非常に大切なことだと改めて思いました。

知事が「個人の判断で家庭を作ることは出来るが子どもは個人の判断が出来ず、自分で家庭を選ぶことは出来ない。だからこそ、大人が子どもを守らなければいけない。」と、このような発言をされていました。その発言に対して自分は激しく共感しました。大人の都合で子ども達に不利益が生じることは無くしていかなければなりません。それでも、経済的事情や家庭的な事情など様々な事情で子どもをどうしても育てることが出来ない家庭もあると思います。そんな時に里親という制度があれば、子どもたちを守ることが出来るんじゃないのかなと感じました。

大台町子育て支援センター 立井雄大



里親シンポジウムに参加させていただき、社会的養護の重要性をあらためて強く感じました。私は子育て支援センターに勤務していますので、日々目にするお母さんと子どもの愛情溢れるほほえましい姿は、見ている私も幸せな気持ちにしてくれます。

しかし、事情があって親が育てることができない子どもが三重県だけでも500人以上もいると知り、胸が痛くなりました。生まれてきた命はみんな平等に幸せでなければならない、それは私たち大人が守るべき幸せなのだと思います。

里親さんからの生の声を聞かせていただき、本当に愛情を持って育てていただいていることが伝わってきました。私自身は自分の子どもを4人育ててきましたが、子どもの気持ちがわからず悩んだり、子育てを投げ出したくなったりしたこともありました。血の繋がらない子どもを育てるのはわが子以上に大変だろうということは想像に余りませんが、子どもを愛し、子育てを楽しんでいるという里親さんたちの言葉を聞いて、私にも何かできることがあるのではという思いが強くなりました。そして、一人でも多くの子どもたちが愛情を受けて育つ環境を整えるためには、里親制度がひろく社会に知られることが大切なのだと認識しました。

南伊勢町子育て支援センター 西本志乃



今回のシンポジウムに参加したことで、里親制度を深く理解することができ、何より当事者の話を聞くことができたことは、とても貴重な体験となりました。

里親制度は、私たちの生活の中で身近なものではないかもしれませんが、里親制度の啓発を通して多くの人が理解を深め、あたたかく見守れるような社会になってほしいと思います。

大紀町健康福祉課 大西真也



里親シンポジウムに参加させていただき、上鹿渡先生のお話を聞かせていただくことで、子どもたちにとって、当たり前の経験・関係性が保障されることの必要性を改めて感じました。里親になるということを決める事は難しいところもあると思いますが、里親家族や社会的養護が必要な子どもたちを地域で支えていく事はできると思います。まずは、「里親」を地域の方々に理解していただくことからだと思うので、そのためのお手伝いをしていきたいと思います。

玉城町 生活福祉課 子育て担当 上村亜由子

## 平成28年度ファミリーサポートセンター事業 「全国アドバイザー講習会・交流集会」



10月7日大阪で実施されたファミサポ全国交流会に参加しました。

テーマは「いま、ファミリー・サポート・センターに求められることは ～守るべきこと・変えていく事～」で近畿、東海等西日本各地から150人余りの参加者でした。

基調講演は甲南大学マネジメント創造学部教授前田正子先生の「これからの子育て支援の在り方とファミリーサポートセンター」でした。未婚化・晩婚化・夫婦の出生力低下等、少子化の要因はいろいろあるが、ほとんどの女性が働く現代では共働きは普通の事、少ない子ども達を大切に育てる社会作りが大切、公共の子育て支援だけではなく市民との協働の街づくりによって、子育てを支える住民の意識を育てる必要がある。

ファミリーサポートセンター事業は相互援助活動である。依頼会員としての登録をきっかけにして、地域のさまざまな人に支えられながら子育て期を過ごした人が、次の子育て支援者に育ってゆく、その視点を持って組織運営をする必要があるとのお話に、「今更何を」なんて思って聞いていましたが、午後のグループ意見交換会で、委託先の変更やアドバイザーの交代などで、継続的な運営が出来なくなっている事や、提供会員不足で依頼成立のために苦労していることなどが、参加したファミサポのアドバイザーから出され、午前中の基調講演の演題に納得しました。

提供会員養成講座を単にサポーター募集ではなく、地域作りの視点で子育て真っ最中のお母さんやお父さんも視野に入れて働きかけをしていく事をさらに強く思いました。

度会町担当アドバイザー 岩井圭子

## 「ニュージーランド子育て支援視察」⑤

◆2014年9月20日～25日／主催：三重県子どもNPOサポートセンター

【9月24日】

9：20ホテルを出発して、最初の視察先“プレイセンター協会”へ。

“PLAYCENTER ASSOCIATION”（PC）

PCとは、乳幼児を持つ地域の仲間が集まり、①相互に支えながら子育てを行い、②親のための学習会を通じて子育てや運営のスキルを身に付けながら親として成長していく子育て当事者間の子育て支援活動を示している。

PCでは、「親を教育者」と見なし、参加する親たちが、子どもや施設運営の知識および技術を学んでいる。ここでの活動方針は、PCの理念である「家族と一緒に成長する」に基づき定められており、親たちは、PCにおける子育ての互助活動を通じて、自分に対する自信や仲間への信頼感を養っていた。（日本およびニュージーランドにおけるプレイセンターのソーシャルキャピタル効果に関する事例研究—参加する親たちの精神性や行動特性を手がかりにして—佐藤純子 より抜粋）

プレイセンター協会は、上記の論文のプレイセンターの連盟で、地域のプレイセンターをサポートしています。日本人スタッフの“くみさん”からもお話を聞くことができました。くみさんは「自分もプレイセンターで子育てしてきたが、皆が助け合い大きな家族のようでとてもよかった。」とっていました。

### ●プレイセンターの基本

- ・大人（父・母・祖父母など）の付添いが必要で（5歳くらいになると子どもだけの参加もOK）、0歳～6歳までの子どもが対象。
- ・週に2日～4日オープンしている中で、最低でも2日来ること。働く親でも関わられるように、大人が交代で来ることも可能。
- ・1回のセッションが2時間半くらい。子どもは25人まで。
- ・親は教育を受け、プレイセンターの企画や運営をする。親の話し合いの場もある。
- ・子どもの好きなものに注目して、それを発展させていく。個々の遊びが集団遊びに発展することもある。ランチも子ども次第で、一斉に食べるわけではない。お誕生日会やクリスマスなど皆で一緒の行事もある。
- ・立ち上げる時は、トレーニングされた親を中心に作っていく。
- ・コミュニティー全体に広がるような活動をし、メンバーは困ったことがあった時など、お互いの家庭にも入り助け合う。



### “TITIRAGI PLAYCENTRE”

オークランドには16のプレイセンターがあり、実際にその中の一つを見学させていただきました。家の中はコーナーごとにいろいろな遊具があり、子どもたちが選んで遊んでいました。

この日は晴れて暖かかったので、外遊びの子どもの方が多く、年長の子どもたちは水遊びや、色水遊びなどをし、小さい子どもは遊具に上って飛び降りる・・・を繰り返していました。親たちは子どもを見守り、危ないところは声をかけたり、少し手を貸したりしていました。一人でランチを食べている4歳くらいの子どももいました。

45人の子どもが登録しているとのこと。セッションは9：45～11：45で、1回に0歳～6歳の子どもが25人。家はプレイセンター協会から借りたり市から借りたりするそうです。ライセンスを持っている人が、必ず1人いるとのこと。

- ・4歳くらいになると、週に2日は子どもだけの参加がOK。
- ・子ども2人～3人に大人が1人見守っている。
- ・コミュニティーの中のセンターであり、センターに通っている人はみな家族。
- ・親たちは子どもに話しかける言葉が大切・・・という教育を受けている。オークランドでは、子どもに話しかける言語を統一している。
- ・子ども一人一人に“ドキュメント”というファイルを作っている。
- ・国が行っているライセンス部分と自由遊びとの並立。
- ・国から補助金が出ており、適正に運営されているかを見るために、3年に1度チェックが入る。

広い家と庭に、雑然とおもちゃが広がり「お片づけは？」と思わないでもありませんでしたが、“子どもを遊ばせるのではなく、子どもが遊ぶ。”ということを大切にしているようで、お母さんたちは見守って、声掛けしている感じでした。



## 子育てQ&A 好き嫌い（偏食）・卒乳編

子どもには一人ひとり個性があり、発育・発達も個人差が大きいものです。親の思った通りにいかないことがいっぱいあります。育ってくるのをあせらずに待ち『はぐくむ』ことが大切です。子どもも親も一緒に育っていくのが育児です。はじめからうまくいかないのが当たり前。だって・・・はじめて同士だもの！

Q



うちの子、好き嫌が多いのよね・・・。  
野菜も、栄養のことを考えると食べてほしいのだけど・・・。

幼児にとっては、甘味や塩味、旨味に比べて苦味や酸味は苦手な味！だからペッと出してしまうこともあります。少しずつ色々な食品を味わっていくうちに、おいしく食べられるようになりますよ。

ぼく、野菜はきらい～!!  
食べたくないなあ～。



苦いのはイヤだ!

もごもごして飲めないよ～。

A

お子さんの偏食は、親御さんにとっての悩みの第2位。約1/3の親御さんが感じているといわれています。3歳頃までは、咀嚼が発達中なため食品そのものの味というより、食べにくさから食品を嫌うことがあります。特定の食品を嫌ってもすぐ偏食と決めつけないで色々な味や食品を楽しむようにしましょう。

繊維の多い野菜や葉物は特に食べにくいようです。よく加熱して少し小さめに切ったり、肉は細かく切るなどの工夫をし、食べやすくしてみるのも効果的です。

この時期の偏食は固定化しない特徴があります。無理強いしたり、食べこぼしを注意しすぎないで食事は楽しく、おいしく食べるようにしましょう！

少しお手伝いをしたり、味見などで自分が関わると食べる意欲が高まります。周囲がおいしそうに食べてみせ、ゆったり待つのが一番です！



Q

もうすぐ1歳になるし、母乳はそろそろやめたほうがいいかしら？



いつまでもおっぱいを欲しがるから、困ったわ・・・。



だっておっぱい大好きだもん。

ママとくっついていたいよ～～。

A

かつて卒乳や断乳が奨励されたこともありますが、自然に母乳がやめられることが望ましいので、現在は母子のスキンシップなどの観点から満1歳以降も無理にやめさせる必要はないとする考え方が主流になっています。しかし、離乳食の食べ方が少なく母乳の量が多い場合は、母乳をやめることで食欲が出たり色々なものに興味を持てるようになるきっかけになる場合もあります。

食べられる食品の種類や量が少しずつ増えていくと食事が楽しみになってくると思います。



## 冬に流行する病気と対策



冬はウィルスが活発になり、体の体温が失われる時季なので、流行の病気にかからないように注意が必要です。流行する病気とその特徴をしっかりと身につけておき、正しく対処することが大切です。

冬に流行する病気は、RSウイルス感染症、インフルエンザ感染症、ノロウイルス感染症、溶連菌感染症、マイコプラズマ肺炎などがあります。今回は、ノロウイルス感染症についてかかってしまった時の対処法をお知らせします。

### ●ノロウイルス感染症とは・・・

乳幼児から高齢者までの幅広い年齢層に急性胃腸炎を引き起こす、ウィルス性の感染症です。長期免疫が成立しないため何度もかかります。主に冬場に発生し、11月頃から流行がはじまり、12月～2月にピークを迎えますが、年間を通して発生します。

### ●どんな症状？

潜伏期間は12～48時間で、発症すると腹痛・吐き気・嘔吐、軽度の発熱の症状があります。発症後、通常であれば1～2日程度で症状は治まります。

### ●かかってしまった時の対処法

ノロウイルスには有効な抗ウィルス剤はなく、対症療法が行われます。抵抗力の弱い乳幼児や高齢者が感染すると、脱水症状になりやすいので、症状が落ち着いた時に少しずつ水分補給を行ってください。

(乳幼児の場合、ジュースや牛乳などの濃い飲みものを与えたり、一気に飲ませたりすると吐き戻してしまうことがあるので注意してください。)

### ●適切な汚物の処理方法

汚物処理をする人自身への感染を予防するため、使い捨てのビニール手袋(2枚重ね)・使い捨てマスク・使い捨てエプロン・使い捨てシューズカバーを着用します。ペーパータオルを使って、汚物を処理し、ポリ袋に入れて廃棄します。ノロウイルスに対しては、次亜塩素酸ナトリウムによる消毒が有効です。次亜塩素酸ナトリウムは、市販の家庭用塩素系漂白剤(濃度約5%)に含まれています。家庭用塩素系漂白剤を使用した消毒液の作り方を紹介します。

いつでも使えるように、汚物の処理キットとして上記にあげたものは常備しておくことをお勧めします。

#### 《用意するもの》

- ・家庭用塩素系漂白剤
- ・よく洗ったペットボトル
- ・使い捨てビニール手袋

■便や嘔吐物が付着した床、衣類、トイレなどの消毒をする場合…  
濃度が0.1%(1000ppm)の消毒液を作ります。

■おもちゃ、ドアノブなど直接手に触れる部分などの消毒をする場合…  
濃度が0.02%(200ppm)の消毒液を作ります。

#### 0.1%(1000ppm)消毒液の作り方

ペットボトルのキャップ2杯  
(5ml×2=10ml)

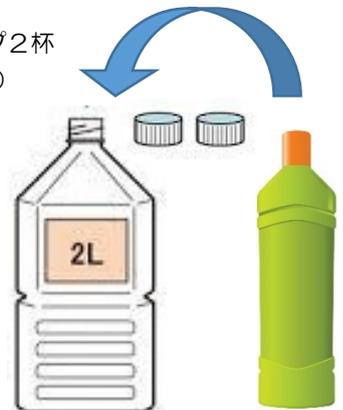
まず、500ミリリットルのペットボトルに、水を半分くらい入れておきます。そこへ、原液10ミリリットルを入れます。最後に水を加えて、全体を500ミリリットルとします。ふたをしてよく混ぜ合わせてください。



#### 0.02%(200ppm)消毒液の作り方

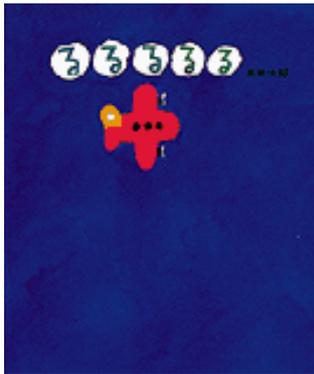
ペットボトルのキャップ2杯  
(5ml×2=10ml)

まず、2リットルのペットボトルに、水を半分くらい入れておきます。そこへ、原液10ミリリットルを入れます。最後に水を加えて、全体を2リットルとします。ふたをしてよく混ぜ合わせてください。



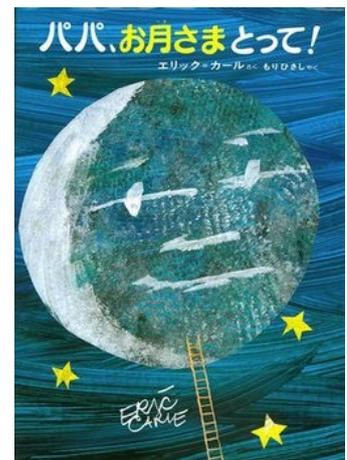
**間違えて飲まないよう、ペットボトルの取り扱いには気をつけてください！**

## 親子で楽しい絵本コーナー



作・絵：五味太郎  
偕成社  
本には、「る」の字がいっぱい！  
高い声や低い声で、早く、ゆっくり、ぐるぐる回るように・・・と、遊び心が刺激されます。  
親子で、絵本から聞こえてくる音を楽しんでください。  
音の絵本シリーズで他にも「どどどどど」・「かかかかか」等があります。

作・絵：エリック=カール  
訳：もりひさし  
偕成社  
モニカが窓から見えるお月さまと遊びたいなと思いを伸ばしましたが届きません。  
「パパ、お月さまとって！」パパは、頑張るので、長ーい長ーいはしごで登って。  
月は小さくなったり、大きくなったり何とも不思議な存在ですね。  
月の満ち欠けを楽しみながら、親子で夜空を見上げてみてください。  
11月14日は満月・29日は新月ですよ。



## 10月末までの各町の状況



|      | 依頼会員 | 提供会員 | 両方会員 | 計   | 活動件数 |
|------|------|------|------|-----|------|
| 大台町  | 54   | 47   | 8    | 109 | 0    |
| 玉城町  | 95   | 52   | 7    | 154 | 157  |
| 南伊勢町 | 9    | 9    | 1    | 19  | 0    |
| 大紀町  | 14   | 25   | 1    | 40  | 0    |
| 度会町  | 21   | 15   | 2    | 38  | 0    |
| 計    | 193  | 148  | 19   | 360 | 157  |

こんな内容で利用されています！！

- ・ 保育所や学童への送迎
- ・ 病児保育への送り
- ・ お母さんの休養・仕事・外出の際の一時的な預かり
- ・ 習い事への送迎 など



### みえ子育て支援・緊急サポートネットワーク

#### ❁南勢志摩地域センター

(玉城町・度会町・大紀町・南伊勢町ファミリー・サポート・センター)

TEL&FAX 0596-23-3938

〒516-0037 伊勢市岩渕2丁目3番13号

NPO 法人三重みなみ子どもネットワーク内

#### ❁多気郡地域センター

(大台町ファミリー・サポート・センター)

TEL&FAX 0598-22-1950

〒515-0084 松阪市日野町788カヨビル1階

特定非営利活動法人松阪子どもNPOセンター内